

## 2014(平成 26)年度 社会福祉法人まどか 事業報告

平成 27 年 9 月に法人創立 10 周年を迎えるにあたり、管理体制の見直しやホームページの刷新を行い情報公開の推進、昨年度より進めていた新会計基準への移行など、より一層法人の基盤整備に尽力した 1 年でした。

また、福山市医師会看護専門学校(第一看護学科)指定の「精神看護学臨地実習」の受け入れを継続して実施する中で、福山平成大学福祉健康学部福祉学科「精神保健福祉援助実習」の受け入れや、当法人では初めてとなる市内中学校生徒の職場体験「チャレンジ・ウィークふくやま 2014」の受け入れを行い、各教育機関との連携と微力ながらも地域貢献を行なうことができました。

7 月には一般財団法人義倉様より助成を受け、当事者の方を講師に体験談を聞かせて頂く講演会を開催。関係機関の支援者や地域住民の方など多くの方々に参加していただきました。心の病にかかること、障がいを抱え生活していくこと、自分らしく生きるとは何かを共有することができました。

このような中で、当法人の事業所利用者に対して職員による虐待が疑われる事案が発生。全役職員が障がいを抱えた方々の支援の在り方について改めて考え、支援者としてのあるべき姿の指標として倫理綱領の制定や他法人事業所の視察研修を行いました。このような事案が再び起きることがないように、職員会議や研修等の機会を活用、役職員一人ひとりがより一層の資質向上を図ります。そして、障がいを抱えた方々の人権尊重や権利擁護はもとより、虐待の防止・撲滅を推進していきます。

事業運営について、就労移行支援事業では集団プログラムの試行や他の就労支援機関等との連携により、利用者の一般企業への就労に向けた支援を継続して行いました。継続して新規利用契約者に取り組みましたが、経営面においては昨年度より 1,898,220 円減収の 7,650,300 円と厳しい財政状況となりました。

就労継続支援(B 型)事業においては、人員配置および加算体制の見直しを行い、経営面においては昨年度より 3,006,612 円増収の 15,387,392 円となりました。生産活動については、昨年度に開拓した高い収益が望める新規受託作業を中心に受託割合の見直しや、他事業と共同で前年以上の地域行事への参加・販売も積極的に実施したことで昨年度より増額の工賃実績となりました。

地域活動支援センター(Ⅲ型)事業においては、既存の障害福祉サービス事業の利用が困難な方を積極的に受け入れ、地域福祉における一つのセーフティネットとしての役割はもとより、より価値ある事業とするため、各種地域行事への参加をはじめ地域交流の拠点となるよう精力的な活動を継続しました。その中

で、創作活動の一環として「あいサポートアート展」へ利用者作品の応募・入選、市内の各団体が実施する行事等へ積極的に参加し、利用者の社会参加の促進と地域啓発を行ないました。今後は、地域福祉における一つのセーフティネットとしての役割を、行政機関等とも連携し一層強化していきます。

実施行事については、例年の行事に加えてより一層の社会参加の促進を図る点から利用者の声を反映した行事を企画・実施し、スポーツ観戦や日帰り旅行も実施しました。また、地域啓発や職員研修も兼ねて前述のように精神障がいを抱えた当事者を講師に講演会を開催しました。

平成 27 年度より新会計基準への完全移行や、障害福祉サービス等報酬単価改訂とそれに併せての体制要件の見直し、2 月に閣議決定された「障害を理由とする差別の解消の推進に関する基本方針」など、社会福祉法人や福祉事業を取り巻く環境の変化はより一層の加速を見せています。このような中、今後を見据えた事業展開と施設整備等環境改善の推進を念頭に第 6 期となる運営体制の確立はもちろん、利用者の自立と家族の負担軽減を支援することが本法人設立の趣旨であることを忘れず、それを現実のものとするべく優秀な人材の確保・育成に努めるとともに職員の待遇改善も引き続き図っていきます。

#### 実施行事

実施月	実施行事名
4 月	観桜会
7 月	七夕杯ボウリング大会、三吉町東町内会夏祭り参加、 講演会「病気が教えてくれたこと～当事者からの声～」( 財義倉 助成事業 )
8 月	三吉町中之丁町内会夏祭り参加
9 月	防災訓練
10 月	ふれあい福祉まつり参加、福山平成大学御幸祭参加
11 月	旭フェスタ出展参加、冬期販売促進事業(11 月～12 月)、TLSF 彩フェスタ参加、 TLSF 府中天満屋販売参加、TLSF 染物屋さんのお絵かき祭り参加
12 月	クリスマス会( 望年会 )
1 月	初詣、防災訓練
2 月	節分行事( 手巻き寿司 )
3 月	野球観戦、宮島日帰り旅行
通年	産業カウンセラーによるカウンセリング、折り紙教室、体力作り事業

## 役職員研修

参加日	研修名	参加人数
4 月 25 日、5 月 2 日・7 日	聴く力、話す力、伝える力向上トレーニング	職員 1 名
7 月 18 日・30 日・31 日、 8 月 7 日・8 日( 計 5 日 )	広島県発達障害者支援スキルアップ研修	職員 1 名
7 月 19 日	病気が教えてくれたこと~当事者からの声~	全職員
7 月 23 日	精神保健福祉講演会~こころの健康づくり~	職員 1 名
7 月 30 日	就労支援ネットワーク会議 研修会	職員 1 名
8 月 20 日・26 日・27 日 ( 計 3 日間 )	広島県発達障害就労支援スキルアップ研修	職員 1 名
10 月 7 日	障がい福祉サービス 経営セミナー	役員 1 名 職員 1 名
10 月 9 日	福山市障がい者自立支援協議会 研修会	職員 1 名
10 月 12 日	感染症予防対策に係る説明会	職員 1 名
10 月 24 日	平成 26 年度 職員基礎研修	職員 1 名
1 月 28 日	福山市自殺対策講演会	職員 1 名
1 月 29 日	社会福祉法人役員等研修会	役員 2 名
2 月 24 日	広島県障害者虐待防止・権利擁護研修	職員 1 名
3 月 12 日	就労支援ネットワーク会議 研修会	職員 1 名
3 月 20 日	指定障害福祉サービス事業者集団指導研修	職員 1 名
3 月 20 日	福山市障がい者自立支援協議会 研修会	職員 1 名

## 関係団体との連絡会議等

連絡会議等 名称
福山市障がい者地域自立支援協議会 ( 就労支援部会、生活支援部会 )
福山・府中障害保健福祉圏域障害者就労支援ネットワーク会議 ( 委員会幹事委員会、就労支援部会、企画研修部会 )
一般社団法人 トータルライフサポートふくやま
福山市社会福祉施設連絡協議会
福山市障害者(児)施設連絡協議会
福山市小規模作業所連絡会

## 平成 26 年度 障害福祉サービス事業所すみれ工房 事業報告

## 利用実績および経営状況について

## ○ 就労移行支援事業

定員 6 名に対して 49.2%と 5 割弱の平均利用実績となりました。これは昨年度の利用実績と比較して約 13.2 ポイントと大幅に減少し、昨年度より 1,898,220 円減収の 7,650,300 円と厳しい財政状況となりました。

主な要因としては、新規利用者数の減少と他事業(就労継続支援 A 型)への移行等による退所者数の増加が挙げられます。

新規利用契約者は 2 名。内訳は当法人の就労継続支援(B 型)事業からの移行が 1 名、その他関係機関等からの紹介では相談支援事業所から 1 名となっています。一方で退所者は 5 名と新規利用者の 2 倍以上となっており、引き続き事業の安定的な運営の為にも、精力的な広報活動等による新規利用契約者を獲得することは課題となっています。

一方で、就労を希望する多様な障がいを抱えた方への対応と、一般企業への就労および職場定着の推進、それを可能とする職員の資質向上も課題となっています。

## 月別の利用登録者および利用者数の推移 (人)

	契約者	延べ利用者	1 日平均	新規契約者	退所者
4 月	5	62	2.82		1
5 月	5	86	3.74	1	
6 月	5	74	3.70		
7 月	5	86	3.74		
8 月	5	72	3.27		
9 月	5	65	3.10		
10 月	5	76	3.30	1	1
11 月	5	77	3.67		1
12 月	4	52	2.60		
1 月	4	52	2.48		1
2 月	3	44	2.20		1
3 月	2	27	1.29		
計(平均)	53	773	2.95	2	5
前々年度	53	826	3.15	5	6
前年度	55	943	3.75	4	4
前年比較	Δ 2	Δ 170	Δ 0.8	Δ 2	1

※ 契約者の計は、各月 1 日現在での利用契約者数の合計

年間延べ利用契約者：7 名、月平均利用契約者：4.42 名

## ○ 就労継続支援(B型)事業

定員 14 名に対して、前年度より 2.6 ポイント増加し 60.5%と 6 割強の平均利用実績となりました。しかし、大幅な利用状況の改善には至っていません。一方、財政状況については人員配置および加算体制の見直しを行なうことで、昨年度より 3,006,612 円増収の 15,387,392 円となりました。

主な要因は、利用実績も昨年度より若干増加していますが、人員配置および加算体制の見直しによるところが大きかったと言えます。そして、これまでの事業運営において体制の確認が不十分であったことは反省すべき点です。安定した事業運営および職員の待遇改善のため、今後も福山市と確認の上で体制の強化に努めます。

新規利用契約者 10 名の内訳は、医療機関からの紹介が 3 名、他事業所からの紹介が 2 名、法人内の他事業からの移行が 3 名、その他 2 名となっています。同サービスを提供する他事業所との併用や、発達障害を含め多種多様な障がいを抱えた方の利用とその支援が行なえるよう、職員の資質向上により一層努め、魅力ある事業所作りをしていきます。

月別の利用登録者および利用者数の推移 (人)

	契約者	延べ利用者	1日平均	新規契約者	退所者
4月	18	173	7.86		1
5月	18	180	7.83	1	1
6月	18	187	8.50		
7月	18	203	8.83	1	1
8月	18	182	8.27		
9月	18	180	8.57		
10月	18	200	8.33	1	
11月	19	154	7.33	1	2
12月	19	158	7.90	1	
1月	19	172	8.19	3	1
2月	21	201	10.05	1	
3月	22	208	9.90	1	1
計	226※	2,198	8.46	10	7
前々年度	203※	2,017	8.1	9	7
前年度	203※	2,017	8.10	9	7
前年比較	23	181	3.42	1	0

※ 契約者の計は、各月 1 日現在での利用契約者数の合計

年間延べ利用契約者：29 名、月平均利用契約者：18.83 名

利用者の状況

(2015 年 3 月末現在)

男女比		障害種別(重複あり)					年齢層						
男性	女性	身体	療育	精神	発達	他	10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	平均年齢
19	4	1	2	20	4	1	2	6	4	5	6	0	39.17

## 就労支援および就労実績、生産活動について

### ○就労移行支援事業

作業訓練を中心に個別対応による履歴書作成支援や模擬面接の実施、ハローワーク福山および東部地域障害者就業・生活支援センターとの連携による企業訪問・面接等への同行にて就労支援を実施しました。

今年度から新規取り組みとして就労支援プログラムを実施。一般企業への就労に向けた身だしなみやコミュニケーション、ストレス対応など施設内でのグループワーク等プログラムや外部にて開催された講演会や研修会への参加を通じての学習機会とし、就労移行支援事業利用者を中心に延べ 22 名が参加されました。

しかし、8 月以降は他機関の実施する職業訓練受講や、退所者の増加による参加者数の減少のため集団プログラムの実施困難など今後の課題もあり、次年度においてプログラム内容の見直しや、ハローワーク等の外部就労支援機関との連携を行なう中で、独自性のある魅力的な取り組みとして刷新したホームページも活用して内外に広報していきたいと考えています。

このような中、利用者数の減少も相まって一般企業への就労が 1 名、市内の就労継続支援(A 型)事業所への移行が 1 名に留まっています。一方、2 年間の利用期間満了に伴い同法人内の就労継続支援(B 型)事業へ移行された利用者もあり、個々の可能性を最大限引き出し一般企業への就労へと繋がるよう、支援員個々の意識や技術の向上を図っていきます。

### ○ 就労継続支援(B 型)事業

前年度に引き続き、生産活動として施設内外の作業科目に継続して取り組む一方、地域におけるイベントに対し地域啓発を含め法人全体として取り組み工賃の向上を図りました。

前年度末より新規受託した作業の工程見直しや品質の向上を行い、より受注単価の高い受託作業の割合を増やしました。また、地域行事への参加・販売も積極的に実施しました。

その結果、総支給額で昨年度より 254,422 円増額の 1,143,999 円となりましたが、月額平均は 5,958 円と昨年度より 845 円の増額に留まりました。これは、短時間の利用者数増加のためであり、年間総支給額を年間総労働時間数で除した時給換算で 1 時間当たり 204 円と、昨年度と比較して 77 円と大幅に増額していることからみてもとれます。

今後も、魅力ある事業所作りとして自主製品の企画・開発も視野に今以上の生産活動収入が得られる新規作業科目の開拓を引き続き行います。また、小規模多機能型として受託作業を就労移行支援事業と連携して行っている中で、受託作業の契約内容を含め事業間での受託割合や収益の分配方法の見直しも継続していきます。

## 平成 26 年度 地域活動支援センターとまり木 事業報告

当年度はスタッフも一新され、福祉サービスの間で困っている当事者、家族のセーフティネットとしての役割、登録利用者の生活訓練及び日中の居場所作りに貢献できたと判断いたします。

特に前年度までの医療機関、基幹相談支援センター主体の紹介に加え、ハローワーク、市役所生活福祉課等よりの紹介も増え、当事業の必要性を改めて感じました。

### ① 生産活動に於いて

当年度も前年に引き続き、(株)永山（フルーツキャップ梱包）、ビッグベアー(有)（洋服ハンガー掛け）、内職市場（ねじワッシャー通し、ビーズ糸通し等）、(社)トータルライフサポートふくやま（清掃、各種スポット作業）の作業に加え新たに(株)ハッピーホーム（DM 封入）の作業が加わり年々充実をしてきている。今後は作業品目を増やすのではなく作業効果が高い品目を選定していく事が重要と感じます。

### ② 地域交流活動に於いて

「すみれ工房」と協働し例年参加させていただいている「東町内会夏祭り」「中ノ丁町内会ふれ愛夏祭り」「ふれあい福祉祭り」に引き続き参加し地域交流を図っていった。更に本年度は(社)トータルライフサポートふくやまよりの多くのイベント（「RiM 福山ガーデンマルシェ」「平成大学御幸際」「染物屋さんのお絵かき祭り、シンコー(株)」「府中天満屋」「彩フェスタ」）に参加させて頂き重ねての交流をする事ができた。

### ③ 創作活動に於いて

例年御協力頂いている毎月第三土曜日の「おりがみ教室」（高橋敏子先生）に加え、本年度より取り組んでいる「さをり織」は毎週火曜日に村田紀美子さんを迎えスタッフともども基本から加工方法の指導をしていただき商品化に向け進めております。

### ④ 体力作りに於いて

例年行っている毎月第四土曜日の「障害者体育センターでのスポーツレクリエーション」を行った。